



More For You
もっと、街・暮らし・笑顔のために

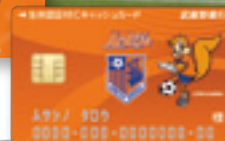


ミニディスクロージャー誌

第90期 営業の中間ご報告

2012.9 Vol. 34

2012.4.1 - 2012.9.30



mini Disclosure



プロフィール (平成24年9月30日現在)

本店所在地 さいたま市大宮区桜木町一丁目10番地8

ホームページ <http://www.musashinobank.co.jp>

設立 昭和27年3月6日

ネットワーク 営業店舗数 93か店(県内91〔うち出張所1〕、県外2)

住宅ローンセンター数 9か所

法人オフィス数 1か所

店舗外ATM数(拠点数) 119か所

ATM・CD設置台数 479台

従業員数 2,258名

総資産 38,584億円

預金等残高 36,119億円

貸出金残高 28,770億円

資本金 457億円

発行済株式数 34,155,456株

自己資本比率 10.81%

連結子会社 ぶざん総合リース株式会社(総合リース、営業資金の貸付業務)

ぶざん保証株式会社(個人向け融資に係る信用保証業務)

むさしのカード株式会社(クレジットカード(JCB、VISA)、金銭の貸付、信用保証業務)

ぶざんビジネスサービス株式会社(銀行事務代行業務)

ぶざんシステムサービス株式会社(コンピュータシステムの開発・販売・保守管理業務)

株式会社ぶざん地域経済研究所(県内経済・産業の調査研究、経営・税務等の相談、各種セミナーの開催)

株式会社ぶざんキャピタル(ベンチャー企業等への投資、経営相談)



目次

プロフィール	1	県民の皆さまとともに	13~14
ごあいさつ	2	もっと、街・暮らし・笑顔のために	15~16
経営理念・中期経営計画	3	CSRへの取組み	17~20
内部管理体制	4	株式情報	21~22
業績ハイライト	5~12		

ごあいさつ

これからも「地域になくてはならない銀行」として
皆さまとともに歩んでまいります。

平素より武蔵野銀行をご利用、お引き立ていただき、誠にありがとうございます。

株主さまをはじめ取引先の皆さまに、当行に対するご理解を一層深めていただければと、平成24年9月期の営業の概況等をわかりやすくお知らせする本冊子を作成いたしました。ご高覧いただければ幸いに存じます。

国内経済は、欧州の財政問題や長引く円高、近隣諸国との軋轢等、景気回復の足かせとなる様々な要因が混在し、不透明な状態が続いております。また、県内経済は、エコカー減税など景気刺激策の終了に伴い、景気押し上げ効果が弱まっておりますが、一方で、消費税増税を見据えた耐久消費財の駆け込み需要により個人消費や設備投資、住宅建設等が牽引し、ゆるやかな成長も見込まれます。

このようななか、平成24年9月期は、貸出金・預金等とともに順調に推移し、貸出金につきましては前年同期比637億円増加し2兆8,770億円、預金等につきましては前年同期比1,036億円増加し3兆6,119億円となりました。

収益面では、お客さまのニーズに対応した効率的な資産運用と適切なリスク管理に努めました結果、経常利益は102億円、中間純利益は過去最高益の水準である67億円となりました。

現在私どもは、中期経営計画の完遂に向け、全役職員一丸となり取り組んでおりますが、これからも「地域共存」「顧客尊重」の経営理念のもと、円滑な資金提供やサービスの充実を図りながら「地域になくてはならない銀行」として地域の更なる発展に全力を尽くしてまいります。

今後とも皆さま方からの変わらぬご支援、ご愛顧を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

平成24年12月

頭取 加藤喜久雄



経営理念・中期経営計画

◆経営理念

「地域共存」……豊かな地域社会の実現に寄与し、地域とともに発展します。

「顧客尊重」……変化を先取りした果敢な経営を展開し、組織を挙げて最良のサービスを提供します。

当行は、「地域共存」「顧客尊重」を永遠の経営理念に掲げており、平成22年4月に中期経営計画「NEW PROJECT 60」をスタートさせました。基本方針・基本戦略で掲げた課題と計画目標の達成に向けて、全力で取り組んでおります。

◆中期経営計画「NEW PROJECT 60」(22年4月～25年3月)

目指すべき姿＝キーワードは3つの「S」

《厳しい環境下において勝ち残る》
強靱な銀行

～どのような環境変化にも耐えうる
財務体質及び収益力＝経営力～

STRONG

⇒強い財務体質

《存在感のある銀行》

～県内における磐石な営業基盤～

STATUS

⇒ステータスを高めて存在感を上げる

《信頼感のある銀行》

～お客さまからの信頼を勝ち得る人材、
円滑な資金提供～

SUPPORT

⇒お客さまをサポートし信頼を得る

〈目指すべき姿に向けて〉

地域密着型金融の愚直な実践

質を伴った貸出資産の積上げ
実態把握による与信費用の低減

役務利益の拡大

預金調達構造の改革
コア預金の拡大

一人一人の生産性向上
フローの収益力拡大

自己資本の積上げ
Tier1比率の向上

基本戦略 3本の柱

営業推進態勢の改革

人材育成の徹底

効率的営業態勢の確立
内部管理態勢の強化

内部管理体制

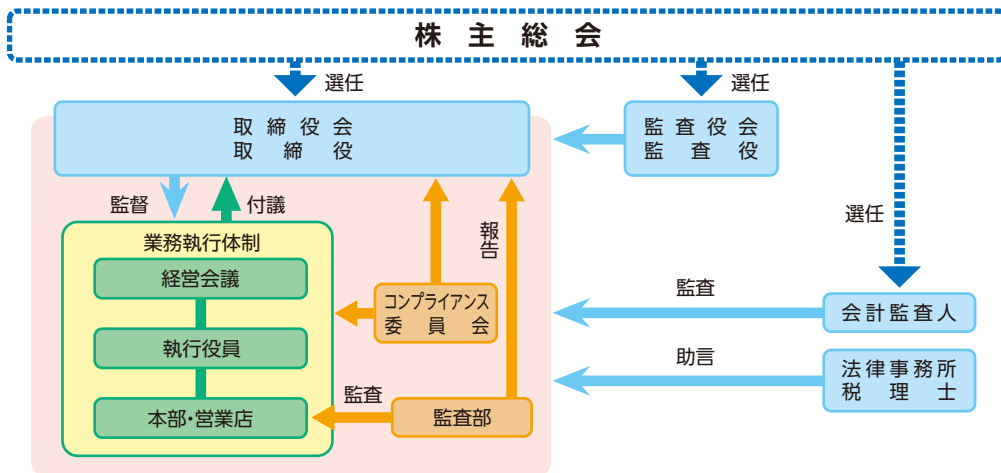
当行は、社会の一員として、地域社会との良好な関係を保ちながら持続的に発展を続けるため、コーポレート・ガバナンス(企業経営に不正行為がないことをチェックする機能)の充実、コンプライアンス(法令遵守)の徹底など内部管理体制の強化に努めています。

コーポレート・ガバナンス体制

当行では、コーポレート・ガバナンスの充実を経営上の重要課題と認識し、法令、行内規程を遵守しつつ、取締役会及び監査役会において、取締役の職務の執行について厳正な監視を行っています。また、執行役員制度により、経営と業務執行の役割分担を明確化し、取締役と執行役員がそれぞれ責任を持って業務を行う体制としています。経営の観点からもコンプライアンス全般を評価し、社会規範に則した誠実、公正で透明性の高い企業活動を実現するため、コンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンスに係る推進施策、コンプライアンス体制などについて審議しています。

●コーポレート・ガバナンス体制図

(平成24年9月30日現在)



金融ADR制度について

「金融ADR制度」とは、紛争事案について裁判によることなく(裁判外)、紛争解決(ADR)機関によるあっせん・調停・仲介のもと、紛争解決を行う制度です。

当事者間で解決を図ることが困難な場合に、お客さまと当行のいずれか一方からの申し立てにより、当行が契約している指定紛争解決機関(一般社団法人全国銀行協会)が、裁判手続きより、迅速、簡易、安価で柔軟な解決を図ります。

当行が契約している指定紛争解決機関
一般社団法人全国銀行協会

【連絡先】

全国銀行協会 相談室
TEL:0570-017109または03-5252-3772
受付:月～金曜(祝日、銀行休業日を除く)の
9:00～17:00

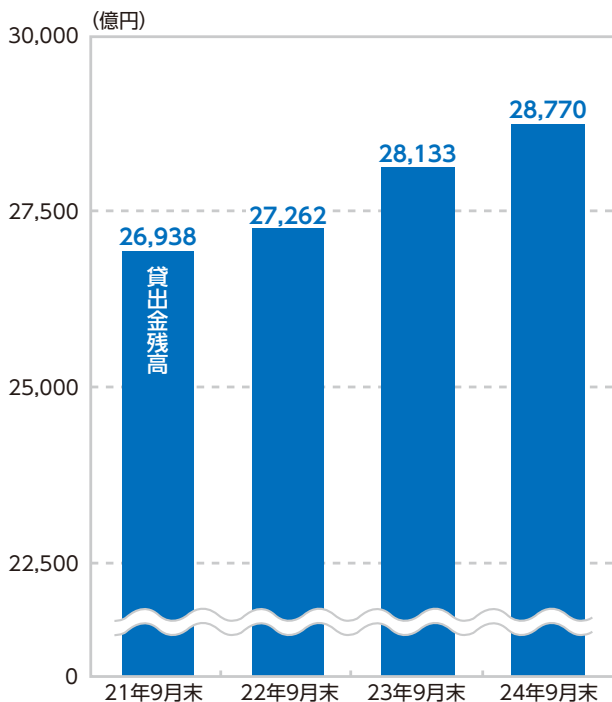


業績のポイント

- 貸出金残高は2兆8,770億円となり、前年同期比年率2.2%、637億円増加しました。
- 預金等残高は3兆6,119億円となり、前年同期比年率2.9%、1,036億円増加しました。
- 預り資産残高は5,683億円となり、前年同期比年率4.3%、234億円増加しました。

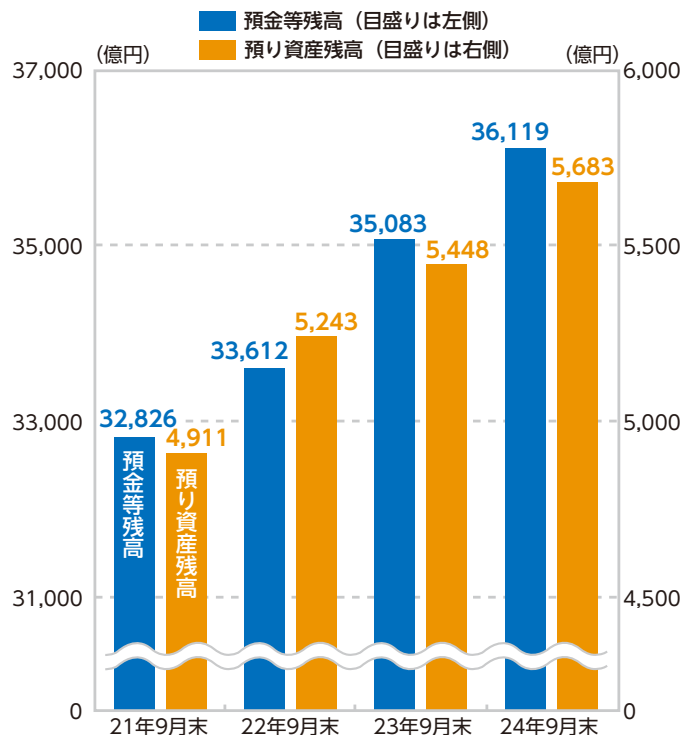
地域密着の
営業により
着実に増加！

貸出金の状況



県内地元企業及び個人のお客さまのニーズにお応えべく、積極的に取組み良質な貸出金の増強に努めました結果、前年同期比637億円(年率+2.2%)増加し、2兆8,770億円となりました。

預金等及び預り資産の状況



預金等残高は、地域に密着した営業基盤の拡充や総合取引の推進等に努めたことから、前年同期比1,036億円(年率+2.9%)増加し、3兆6,119億円となりました。

預り資産残高は、一時払終身保険を中心とした保険商品の販売増加により、前年同期比234億円(年率+4.3%)増加し、5,683億円となりました。

※預金等とは、預金に譲渡性預金を加えたものです。

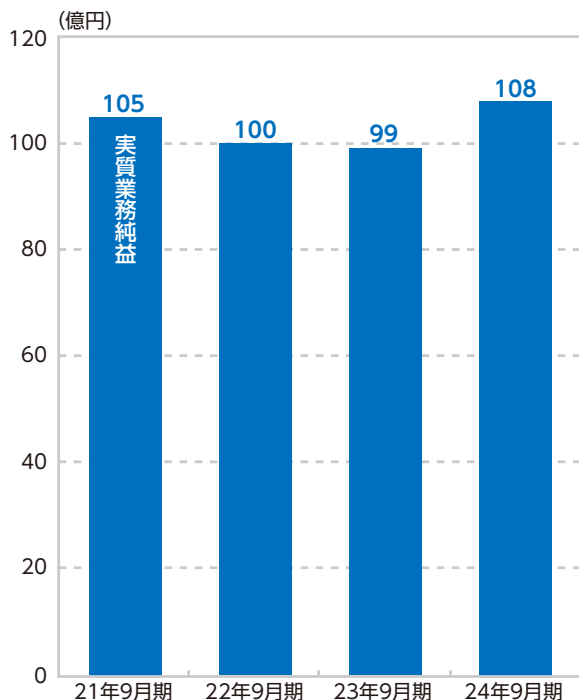


業績のポイント

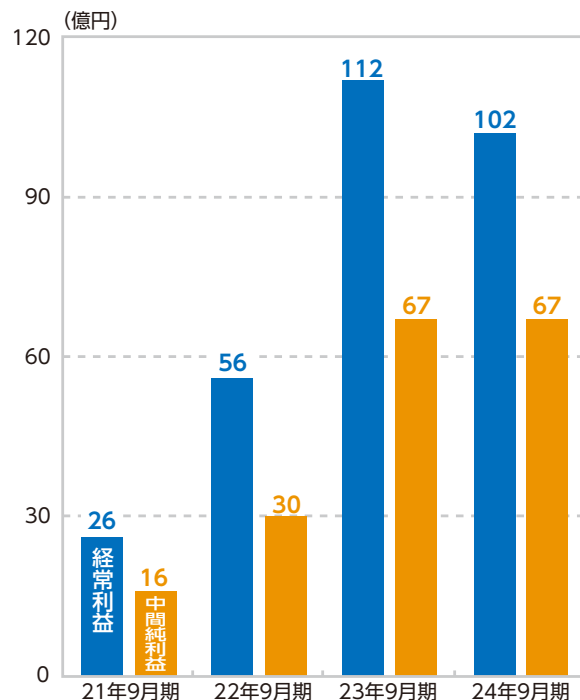
中間純利益は
過去最高益水準

- 実質業務純益は、108億円となりました。
- 経常利益は102億円、中間純利益は前年同期に並ぶ過去最高益水準の67億円となりました。

損益の状況



実質業務純益は、市場金利の低下を背景とした貸出金利息等の減少により資金利益が減少したものの、国債等債券売却益の増加により、前年同期比9億円増加し、108億円となりました。



経常利益は、前年同期比9億円減少し102億円となりました。
中間純利益は、過去最高益であった前年同期と同水準の67億円となりました。

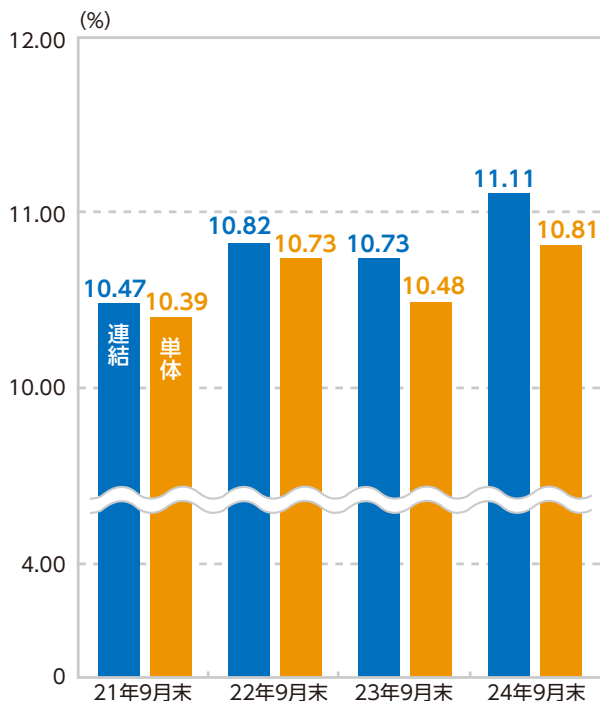


業績のポイント

- 単体自己資本比率は10.81%、連結自己資本比率で11.11%となり引き続き高い健全性を堅持しております。
- 格付は「A+」、債務履行の確実性が高い「投資適格」の評価を受けています。

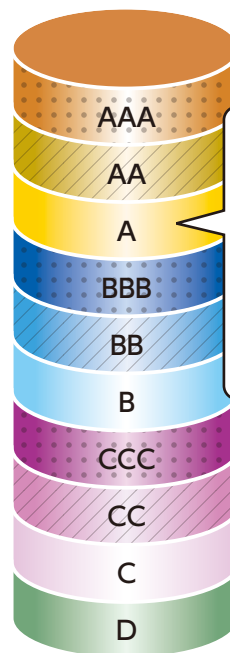
連結
自己資本比率
11%超！

自己資本比率



24年9月末の単体自己資本比率は、内部留保の積み上げ等により、前年同期比0.33%増加し、10.81%となりました。また、連結自己資本比率は11%を超え、財務内容は引き続き高い健全性を堅持しております。

格付



(格付の公表:平成24年1月25日)

第三者機関
による格付

A+

A

A-

当行は、(株)日本格付研究所から「長期優先債務」について「A+」の格付を取得しております。当行の格付「A+」は、「債務履行の確実性が高い」という投資適格の評価です。



業績のポイント

- 不良債権残高は740億円となりました。
- 不良債権比率は前年同期末同様2.5%となりました。

不良債権への
十分な備え

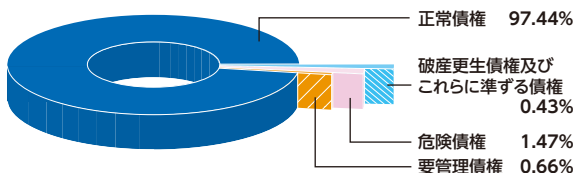
不良債権の状況

金融再生法に基づく開示債権

平成24年9月末実績は、破産更生債権及びこれらに準ずる債権が123億円、危険債権が425億円、要管理債権が192億円となり、いわゆる不良債権残高は、740億円となりました。

	23年9月末	24年9月末	増	減
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	163	123	△40	
危険債権	372	425	53	
要管理債権	180	192	12	
小計(不良債権)	715	740	25	
正常債権	27,598	28,209	611	
合 計	28,312	28,948	636	

(※上記の計数は億円未満を四捨五入しています。)



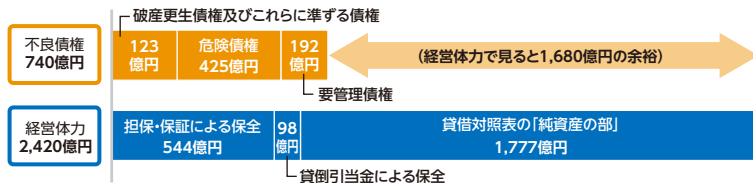
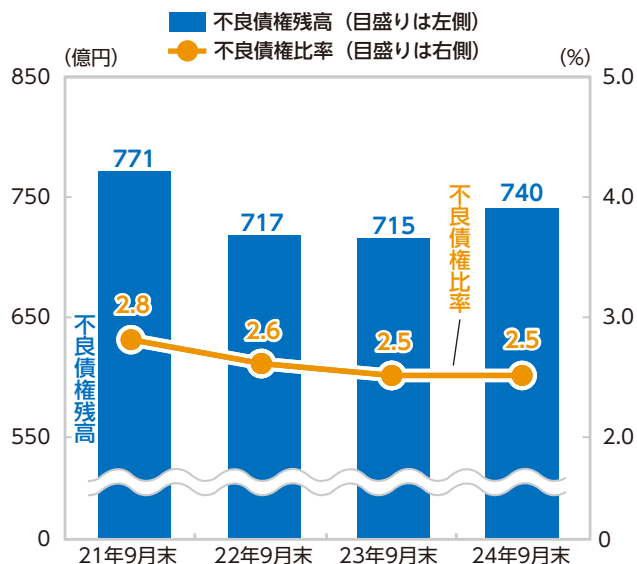
(※上記の計数は小数点第2位未満を四捨五入しています。)

不良債権への備え

平成24年9月末の不良債権740億円に対する備えでは、担保・保証544億円、貸倒引当金98億円の642億円が確保され、保全率は86.86%です。

残りの97億円は直ちに保全が必要な債権ではなく、仮に全額追加負担となっても、自己資本で処理できるだけの十分な経営体力を有しています。

平成24年9月末の不良債権比率は、前年同期末同様2.5%となりました。



中間貸借対照表

(単位:百万円)

	平成 23 年 9 月末	平成 24 年 9 月末
(資産の部)		
現金預け金	57,825	105,088
コールローン	80,520	140,000
買入金銭債権	3,378	2,040
商品有価証券	219	228
金銭の信託	1,500	1,498
有価証券	723,147	677,689
貸出金	2,813,314	2,877,070
外国為替	3,601	2,433
その他資産	13,694	11,743
有形固定資産	34,226	34,856
無形固定資産	2,663	3,117
繰延税金資産	8,856	6,589
支払承諾見返	10,233	9,530
貸倒引当金	△ 14,395	△ 13,417
資産の部合計	3,738,787	3,858,470

(単位:百万円)

	平成 23 年 9 月末	平成 24 年 9 月末
(負債の部)		
預金	3,495,260	3,580,617
譲渡性預金	13,040	31,290
コールマネー	—	1,164
借入金	17,774	21,842
外国為替	116	94
社債	10,000	10,000
その他負債	12,267	13,606
賞与引当金	1,201	1,186
退職給付引当金	5,522	5,518
睡眠預金払戻損失引当金	211	236
偶発損失引当金	825	680
再評価に係る繰延税金負債	5,639	4,937
支払承諾	10,233	9,530
負債の部合計	3,572,092	3,680,704
(純資産の部)		
資本金	45,743	45,743
資本剰余金	38,351	38,351
資本準備金	38,351	38,351
利益剰余金	71,986	78,918
利益準備金	10,087	10,087
その他利益剰余金	61,898	68,831
自己株式	△ 901	△ 898
株主資本合計	155,179	162,115
その他有価証券評価差額金	6,085	9,384
繰延ヘッジ損益	△ 1,528	△ 1,413
土地再評価差額金	6,951	7,653
評価・換算差額等合計	11,508	15,624
新株予約権	6	25
純資産の部合計	166,694	177,765
負債及び純資産の部合計	3,738,787	3,858,470

中間損益計算書

(単位:百万円)

	平成 23 年度 中間期	平成 24 年度 中間期
経常収益	38,320	35,318
資金運用収益	28,389	26,742
(うち貸出金利息)	(24,406)	(23,005)
(うち有価証券利息配当金)	(3,825)	(3,589)
役務取引等収益	4,449	4,387
その他業務収益	738	3,002
その他経常収益	4,744	1,184
経常費用	27,084	25,027
資金調達費用	2,698	1,987
(うち預金利息)	(1,413)	(1,195)
役務取引等費用	2,434	2,564
その他業務費用	678	462
営業経費	18,231	18,719
その他経常費用	3,042	1,292
経常利益	11,235	10,290
特別利益	0	0
特別損失	22	24
税引前中間純利益	11,213	10,266
法人税、住民税及び事業税	1,158	3,512
法人税等調整額	3,255	32
法人税等合計	4,414	3,544
中間純利益	6,799	6,722

中間株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

	平成 23 年度 中間期	平成 24 年度 中間期
株主資本合計		
当期首残高	149,398	156,743
当中間期変動額		
剰余金の配当	△ 1,016	△ 1,355
中間純利益	6,799	6,722
自己株式の取得	△ 1	△ 1
自己株式の処分	—	6
利益剰余金から資本剰余金への振替	—	—
当中間期変動額合計	5,781	5,372
当中間期末残高	155,179	162,115
評価・換算差額等合計		
当期首残高	6,853	15,921
当中間期変動額		
株主資本以外の項目の 当中間期変動額 (純額)	4,654	△ 297
当中間期変動額合計	4,654	△ 297
当中間期末残高	11,508	15,624
新株予約権		
当期首残高	—	19
当中間期変動額		
株主資本以外の項目の 当中間期変動額 (純額)	6	5
当中間期変動額合計	6	5
当中間期末残高	6	25
純資産合計		
当期首残高	156,252	172,684
当中間期変動額		
剰余金の配当	△ 1,016	△ 1,355
中間純利益	6,799	6,722
自己株式の取得	△ 1	△ 1
自己株式の処分	—	6
株主資本以外の項目の 当中間期変動額 (純額)	4,661	△ 291
当中間期変動額合計	10,442	5,081
当中間期末残高	166,694	177,765

中間連結貸借対照表

（単位:百万円）

	平成 23 年 9 月末	平成 24 年 9 月末
(資産の部)		
現金預け金	58,591	105,203
コールローン及び買入手形	80,520	140,000
買入金銭債権	3,378	2,040
商品有価証券	219	228
金銭の信託	1,500	1,498
有価証券	726,232	680,810
貸出金	2,803,819	2,865,466
外国為替	3,601	2,433
リース債権及びリース投資資産	14,577	14,883
その他資産	22,628	21,352
有形固定資産	35,570	36,093
無形固定資産	2,836	3,274
繰延税金資産	11,600	8,672
支払承諾見返	10,233	9,530
貸倒引当金	△ 20,603	△ 19,274
資産の部合計	3,754,705	3,872,216

（単位:百万円）

	平成 23 年 9 月末	平成 24 年 9 月末
(負債の部)		
預金	3,489,615	3,572,697
譲渡性預金	10,040	28,290
コールマネー及び売渡手形	—	1,164
借入金	25,950	28,860
外国為替	116	94
社債	10,000	10,000
その他負債	23,689	25,050
賞与引当金	1,264	1,248
役員賞与引当金	7	6
退職給付引当金	5,570	5,559
利息返還損失引当金	81	108
睡眠預金払戻損失引当金	211	236
ポイント引当金	61	62
偶発損失引当金	825	680
再評価に係る繰延税金負債	5,639	4,937
支払承諾	10,233	9,530
負債の部合計	3,583,307	3,688,527
(純資産の部)		
資本金	45,743	45,743
資本剰余金	38,351	38,351
利益剰余金	72,095	79,714
自己株式	△ 901	△ 898
株主資本合計	155,289	162,911
その他有価証券評価差額金	6,087	9,391
繰延ヘッジ損益	△ 1,528	△ 1,413
土地再評価差額金	6,951	7,653
その他の包括利益累計額合計	11,510	15,631
新株予約権	6	25
少数株主持分	4,591	5,120
純資産の部合計	171,397	183,688
負債及び純資産の部合計	3,754,705	3,872,216

中間連結損益計算書

(単位:百万円)

	平成 23 年度 中間期	平成 24 年度 中間期
経常収益	42,612	40,421
資金運用収益	28,467	26,791
(うち貸出金利息)	(24,458)	(23,034)
(うち有価証券利息配当金)	(3,848)	(3,607)
役務取引等収益	4,946	4,874
その他業務収益	1,052	3,338
その他経常収益	8,146	5,417
経常費用	30,732	28,964
資金調達費用	2,741	2,021
(うち預金利息)	(1,412)	(1,194)
役務取引等費用	2,088	2,195
その他業務費用	678	462
営業経費	18,654	19,192
その他経常費用	6,568	5,092
経常利益	11,880	11,456
特別利益	0	0
特別損失	22	24
税金等調整前中間純利益	11,858	11,432
法人税、住民税及び事業税	1,522	3,850
法人税等調整額	3,298	238
法人税等合計	4,821	4,088
少数株主損益調整前中間純利益	7,037	7,343
少数株主利益	332	269
中間純利益	6,704	7,074

中間連結包括利益計算書

(単位:百万円)

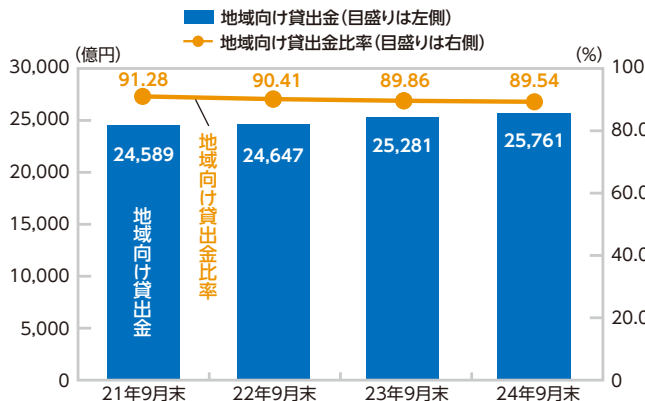
	平成 23 年度 中間期	平成 24 年度 中間期
少数株主損益調整前中間純利益	7,037	7,343
その他の包括利益	4,657	△ 292
その他有価証券評価差額金	4,708	△ 287
繰延ヘッジ損益	△ 50	△ 4
中間包括利益	11,694	7,051
親会社株主に係る中間包括利益	11,359	6,778
少数株主に係る中間包括利益	334	273

中間連結株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

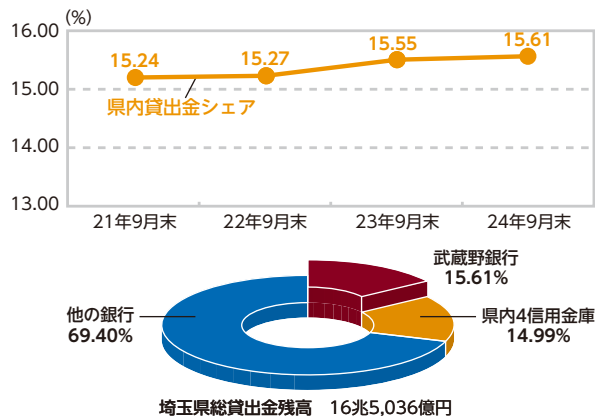
	平成 23 年度 中間期	平成 24 年度 中間期
株主資本合計		
当期首残高	149,602	157,186
当中間期変動額		
剰余金の配当	△ 1,016	△ 1,355
中間純利益	6,704	7,074
自己株式の取得	△ 1	△ 1
自己株式の処分	—	6
利益剰余金から資本剰余金への振替	—	—
当中間期変動額合計	5,686	5,724
当中間期末残高	155,289	162,911
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	6,855	15,927
当中間期変動額		
株主資本以外の項目の 当中間期変動額 (純額)	4,655	△ 296
当中間期変動額合計	4,655	△ 296
当中間期末残高	11,510	15,631
新株予約権		
当期首残高	—	19
当中間期変動額		
株主資本以外の項目の 当中間期変動額 (純額)	6	5
当中間期変動額合計	6	5
当中間期末残高	6	25
少数株主持分		
当期首残高	4,260	4,850
当中間期変動額		
株主資本以外の項目の 当中間期変動額 (純額)	331	269
当中間期変動額合計	331	269
当中間期末残高	4,591	5,120
純資産合計		
当期首残高	160,718	177,984
当中間期変動額		
剰余金の配当	△ 1,016	△ 1,355
中間純利益	6,704	7,074
自己株式の取得	△ 1	△ 1
自己株式の処分	—	6
株主資本以外の項目の 当中間期変動額 (純額)	4,992	△ 20
当中間期変動額合計	10,679	5,703
当中間期末残高	171,397	183,688

地域向け貸出金



24年9月末の地域向け貸出金は、前年同期比480億円増加し、2兆5,761億円となりました。この結果、地域向け貸出金比率は89.54%となりました。

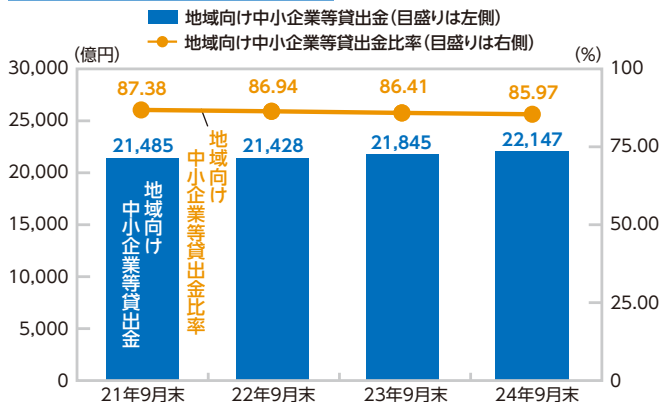
県内貸出金シェア



地域向け貸出金が増加したことに伴い、24年9月末の埼玉県内の貸出金シェアは、前年同期比0.06%増加し、15.61%となりました。

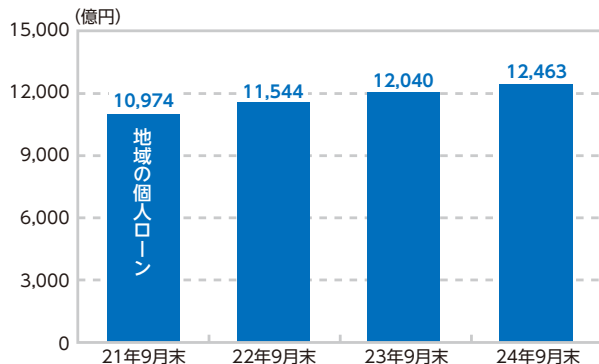
出所:日本銀行調査統計局資料ほか
銀行は全店舗計(属地主義)、信用金庫は本店所在地ベース

地域向け中小企業等貸出金



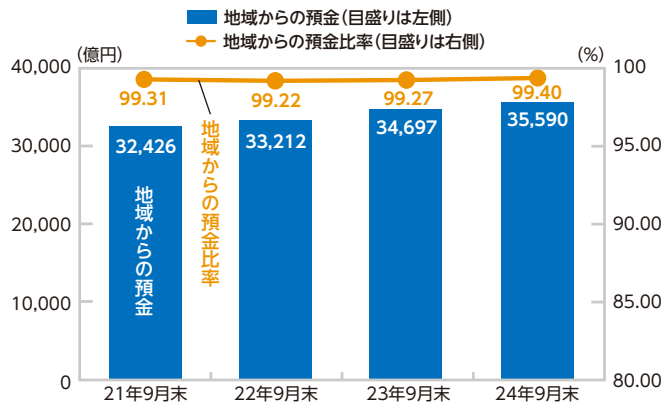
24年9月末の地域向け中小企業等に対する貸出金残高は、前年同期比302億円増加し、2兆2,147億円となりました。また、地域向け中小企業等貸出金比率は85.97%と、引き続き高い割合を維持しております。

地域の個人ローン



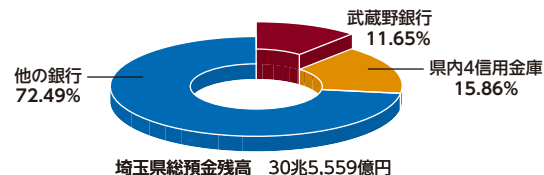
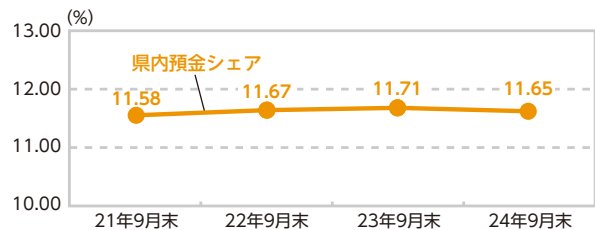
24年9月末の地域の個人ローン残高は、前年同期比423億円増加し、1兆2,463億円となりました。

地域からの預金



24年9月末の地域からの預金残高は、前年同期比893億円増加し、3兆5,590億円となりました。この結果、地域からの預金比率は、99.40%となりました。

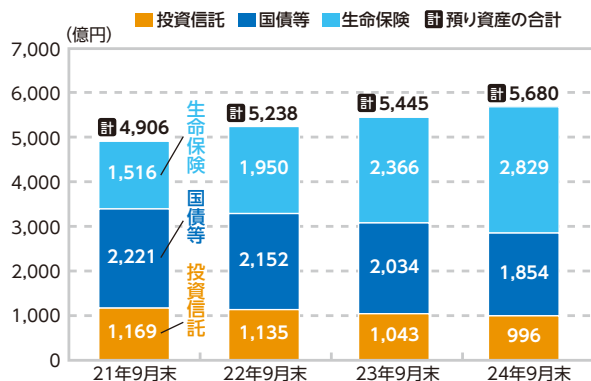
県内預金シェア



地域からの預金が着実に増加したものの、24年9月末の埼玉県内の預金シェアは前年同期比0.06%低下し、11.65%となりました。

出所:日本銀行調査統計局資料ほか
銀行は全店舗計(属地主義)、信用金庫は本店所在地ベース

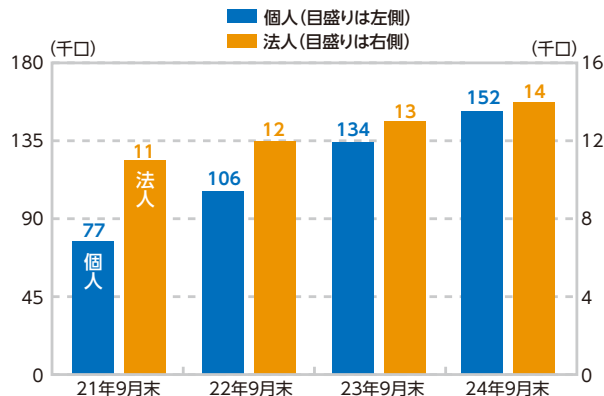
地域からの預り資産



24年9月末の地域からの預り資産残高は、前年同期比235億円増加し、5,680億円となりました。

※投資信託は時価で表示しております。
※生命保険は累計販売額です。

インターネットバンキング口座契約数



メイン化活動の推進により、インターネットバンキングの口座契約数は、個人・法人ともに、毎年着実に増加しています。

もっと、街・暮らし・笑顔のために

60th
Anniversary

平成24年4月、おかげさまで当行は創業60周年を迎えました。

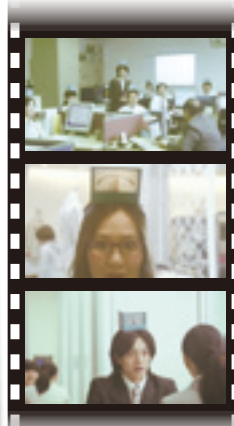
埼玉の地元銀行として、地域にお住まいの皆さまや日頃当行をご利用くださっているお客さまに感謝の気持ちを込めて、「More For You～もっと、街・暮らし・笑顔のために～」というメッセージを掲げ、さまざまな記念事業を実施しています。

新テレビCM放映 ～CMコンテストで「ACCシルバー」受賞～

創業60周年を機に、新しいテレビCMを制作し、24年4月よりテレビ埼玉にて放映しています。

また、新CM「うそ発見器」(90秒)は、(社)全日本シーエム放送連盟(ACC)が毎年開催しているテレビCMコンテストで、応募総数1,385作品の中から選ばれ、銀行業界で初めて「ACCシルバー(銀賞)」を受賞しました。

受賞CM	うそ発見器(90秒)
プランナー	山田慶太氏
撮影カメラマン	阿藤正一氏
出演	勝俣幸子さん(オフィスまとぼ)他



武蔵野銀行 CM

検索



小学生対象のサッカー教室開催

24年6月、「NACK5スタジアム大宮」にて行われた、大宮アルディージャvs清水エスパルスの当行プレゼンツマッチ開始前に、小学生100名を対象に「サッカー教室」を開催しました。

大宮アルディージャのコーチの皆さんの温かいご指導のもと、プロが使用するピッチで元気にボールを追いかけていました。

なお、サッカー教室の運営には、当行のボランティア組織「武蔵野ボランティアクラブ」の会員10名も参加しました。

「大宮アルディージャ」デザイン通帳・キャッシュカードお取扱開始

県内のスポーツの振興を支援するため、24年7月、「大宮アルディージャ」デザインの普通預金・総合口座・積立式定期預金の通帳及び、生体認証付ICキャッシュカードのお取扱いを開始しました。



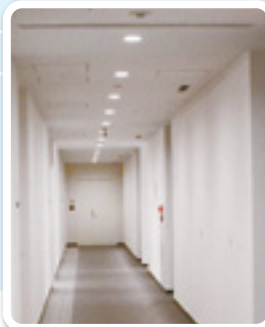
新事務センター竣工

24年9月、さいたま市大宮区北袋町に「新事務センター」が竣工し、24年10月より業務を開始しました。

新事務センターの機能

- (1) 預金・為替業務など、営業店の後方で行っている事務の本部集中化を図るため、各地に分散しているセンター機能を集約し、効率的な業務運営を行います。
- (2) BCP(業務継続計画)に対応する拠点として活用するため、耐震性に優れ、非常用電源等の設備も整備しました。
- (3) 環境面にも配慮し、一部照明のLED化や外構・屋上緑化等を導入しました。

所在地	さいたま市大宮区北袋町一丁目307番地
構造階数	地上5階建
延床面積	3694.5平方メートル
特徴	(1) 一部照明のLED化 (2) 外構及び屋上の緑化 (3) アルミルーバーの設置 (4) 高性能Low-E ガラスの採用 (5) 照度センサー・人感センサーの設置 (6) 全熱交換器の設置



CSRへの取り組み

当行は、県民の銀行として、お客さまをはじめ地域社会、株主の皆さま、従業員など当行を取り巻く全ての人々からの理解と共感、信頼や支持を得ながら持続的に成長を遂げていくことが、当行の企業市民としての社会的責務と認識し、「地域経済への貢献」、「地域社会への貢献」、「環境への配慮」を3本柱とし、CSRに関するさまざまな取り組みを行っています。

地域経済への貢献

事業再生に向けたご支援

融資部企業経営支援室と営業店が一体となって、経営分析・改善策のアドバイスや経営改善計画の策定支援、さらには、埼玉県中小企業支援協議会や外部コンサルタント機関等との連携を図りながら、お取引先企業の実情に応じた再生支援、経営改善支援に計画的に取り組んでいます。

店舗ネットワークの充実

❖ 吉川支店開設に向けて

中期経営計画「NEW PROJECT 60」における、県内空白地域への新規出店を積極的に進める方針に沿って、25年1月、JR武蔵野線の吉川駅近くに「吉川支店」を開設します。これにより、当行の店舗数は94か店となります。

吉川支店の概要	所在地	埼玉県吉川市平沼一丁目14番12
	開設予定日	平成25年1月23日(水)
	店舗の特徴	- 各種ご相談スペースの充実 - ご高齢の方や障がいをお持ちのお客さまに配慮し、入口の音声ガイド、窓口までの点字ブロック、荷物整理台等を設置 - 環境に配慮し、当行で初めて店内の全照明にLEDを採用



吉川支店（完成予想図）

❖ 鴻巣支店新店舗オープン

鴻巣支店は、昭和30年12月に当行20番目の店舗として開設し、地域の皆さまとともに発展してまいりましたが、この度、お客さまの多様化するニーズにお応えし、より便利にご利用いただけるよう建替を行い、24年10月に新店舗がオープンしました。

鴻巣支店の概要	所在地	埼玉県鴻巣市本町七丁目2番33
	店舗の特徴	- 各種ご相談スペースの充実 - ご高齢の方や障がいをお持ちのお客さまに配慮し、ATMまでの点字ブロック、多目的トイレを設置 「人形のまち」を意識した和風型応接を設置



ATMまでの点字ブロック



和風型応接

新成長分野への取組み強化

当行では、成長基盤強化への取組みを通じて、地域経済の持続的な発展を支援しています。

❖ 農業分野への取組み

埼玉県は、大消費地の中の生産地として数多くの品目の農業生産を行っており、過去5年間の生産額の伸び率は全国1位となっています。また、農業法人数も10年間で倍増し、農業経営の高度化が進展しています。

当行では本部に農業支援チームを設け、金融面での支援にとどまらず、農業者の皆さまの経営革新や販路拡大をサポートするセミナー・大規模商談会等も開催し、24年3月末現在で、県内農業法人取引シェアは約4割を占めるまでになっています。



「埼玉発！“美味しいもの”出会いフェア in ソニックシティ」開催



「太陽光発電セミナー」開催

❖ 環境分野への取組み

24年7月、「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」が開始され、快晴日数が多い埼玉県では、遊休地等を利用した企業のメガソーラー建設や一般住宅の太陽光設備の導入が増加しています。

当行では、24年8月に、太陽光発電事業支援融資「太陽の恵み」、24年9月には個人のお客さま向け「むさしのくらし快適ローン 太陽の恵み・エコリフォームプラン」の取扱いを開始しました。そのほか、太陽光発電事業に関するセミナーも開催し、お客さまへの幅広いサポートに取り組んでいます。

❖ 医療・福祉分野への取組み

埼玉県は、医療・福祉のサービスの拡充が喫緊の課題となっていることから、当行では、本部に医療・福祉チームを設置し、金融面でのご支援を通じて、地域医療の整備・拡充に貢献しています。また、医療機関・福祉施設からのご相談業務にも対応しており、24年3月末現在で、県内医療法人（年商5億円以上）取引シェアは50%まで拡大しています。



医療機関等からのご相談も承っております。

海外進出支援の取組み

海外進出支援室では、お取引先企業の海外進出を積極的に支援しています。具体的には、国際協力銀行（JBIC）との地銀連携協定を活用し、23年10月にタイ王国のカシコン銀行と、24年7月にはインドネシア共和国のバンクネガラインドネシアと業務提携しました。両国へ進出または進出をご検討中の皆さまに、両国のさまざまな情報や各種金融サービスをご提供しています。

地域社会への貢献

金融教育への協力

未来を担う子どもたちに、お金の役割や銀行の仕事について学ぶ機会を提供するため、各店にて職場見学会や体験学習を積極的に実施しています。また、毎年、埼玉県主催の「青少年夢のかけはし事業」に協力しており、本年も8月に、6か店にて小学校4～6年生を対象とした「武蔵野銀行のお仕事体験～目指せ！ 日本一の銀行員～」を開催しました。

そのほか、24年10月には、淑徳大学にて、「地域経済の発展と地域金融機関の役割」をテーマに、寄付講座を開催しました。



埼玉県の「青少年夢のかけはし事業」に協力



小学生の職場体験学習を実施



淑徳大学での寄付講座

地域の文化・芸術・スポーツの振興

地域の文化・芸術、スポーツ活動が盛んになることを願い、さまざまな取り組みを行っています。ヴァイオリニストの吉田恭子さんにご協力いただき、小学校の音楽室等でコンサートを開催し、子どもたちにプロが奏でる素晴らしい音楽に触れる機会を提供しているほか、サッカーJリーグチーム「大宮アルディージャ」のトップパートナー企業として、プレゼンツマッチを開催しています。



小学校の音楽室等でコンサートを開催



大宮アルディージャの
当行プレゼンツマッチ



社会貢献型自動販売機

社会貢献型自動販売機の導入

本部棟・新事務センターの食堂等において、「社会貢献型自動販売機」の導入を進めています。「社会貢献型自動販売機」とは、自動販売機に「募金箱」の役割を付加し、売上金の一部を社会貢献活動を行う団体等に寄付するもので、当行では、売上金の一部を、公益財団法人日本対がん協会ほほえみ基金や埼玉県国際交流協会等に寄付を行ってまいります。

環境への配慮

銀行業界初！新事務センター「JHEP認証」取得

24年9月に竣工した「新事務センター」では、建設の際、かつて、さいたま市大宮区南東部の平野に見られた自然林(シラカシ林)の再生に寄与するため、屋上・外構・駐車場等に、シラカシはじめ、ヤブツバキ、イロハモミジ等、日本在来の植物種のみを植栽しました。

24年10月、このような生物多様性に配慮した取組みが評価され、公益財団法人日本生態系協会の「JHEP(ジェイヘップ)」認証(ランク:A)を、銀行業界で初めて取得しました。

※ JHEP

(Japan Habitat Evaluation and Certification Program)

- 生物多様性の価値を定量的に評価する方法として米国で開発され、広く普及している「ハビタット評価手続き(HEP)」の日本版として、公益財団法人日本生態系協会が平成20年に創設。
- 生物多様性に貢献する本場に優れた取組みだけが認証される。
- 評価はAAAからDまでの10段階で行い、上位5ランクが認証の対象。



JHEP 認証式
(写真中央は公益財団法人日本生態系協会会長の池谷孝文様)



外構緑化



シラカシ



ヤブツバキ

従業員への環境教育（金融業界唯一の取組み）

環境に配慮した取組みを進めていくにあたり、行員一人一人が環境について正しく理解することが重要であるため、財団法人埼玉県生態系保護協会ご協力のもと、環境学習プログラム「ぶざん環境カレッジ」を開講しております。また、23年度より新入行員の研修に環境学習を組み込み、ビオトープでの外来植物駆除等を行っています。



三ツ又沼ビオトープでの外来植物駆除

環境保全への貢献

❖ 公益信託武蔵野銀行みどりの基金による助成

本年度、創設20周年を迎えた「公益信託武蔵野銀行みどりの基金」では、延べ151団体に、総額約5,200万円を助成させていただいています。なお、24年12月21日(金)まで、25年度の助成先募集を行っています。募集要項等は各店の窓口にて配布しているほか、ホームページにも掲載しています。

❖ ボランティア活動

24年5月に設立した「武蔵野ボランティアクラブ」では、環境保全も主要な活動の一つとしており、24年11月には見沼たんぼ(芝川第一調節池)の外来植物駆除等を実施しました。



見沼たんぼ(芝川第一調節池)での外来植物駆除

株式のご案内

1.事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
2.定時株主総会	毎年6月に開催
3.剰余金の配当	株主総会の決議により、毎年3月31日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主若しくは信託受託者、登録株式質権者にお支払いします。
4.中間配当	中間配当を行う場合は、取締役会の決議により、9月30日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主若しくは信託受託者、登録株式質権者にお支払いします。
5.基準日	定時株主総会の議決権の基準日は毎年3月31日
6.公告の方法	電子公告により当行ホームページ (http://www.musashinobank.co.jp) に掲載いたします。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
7.株主名簿管理人 及び特別口座管 理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 (連絡先) 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 0120-232-711 (通話料無料) (ご注意) 株主さまの住所変更や買取請求等のお手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることになっていますので、ご注意ください。

特別口座に記録された株主さまへ

1. 特別口座のままでは売買を行うことはできません。証券会社等に株主さまご本人の口座を開設(既に開設している場合は不要です。)し、特別口座から証券会社等の口座に振替請求を行ってください。
2. 特別口座に記録された単元未満株式の買取請求、買増請求、住所変更等のお手続きは、以下の口座管理機関にお申し出ください。

特別口座の口座管理機関

〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
0120-232-711 (平日9:00~17:00) <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

株式の状況等

(平成24年9月30日現在)

- 発行可能株式総数…………… 80,000千株
- 発行済株式の総数…………… 34,155千株
- 株主数…………… 13,874名

大株主の状況 (平成24年9月30日現在)

(株・%)

株 主 名	所有株式数	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,664,500	7.80
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	1,245,900	3.64
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,218,987	3.56
武蔵野銀行従業員持株会	837,192	2.45
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	835,000	2.44
明治安田生命保険相互会社	735,858	2.15
住友生命保険相互会社	702,900	2.05
日本生命保険相互会社	540,222	1.58
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカウント (常任代理人 株式会社みずほコーポレート銀行決済営業部)	525,200	1.53
前田硝子株式会社	508,300	1.48

※小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。

株式の所有者別構成

(平成24年9月30日現在)

(単元の株式数は100株です。)

その他の法人：26.20%

株主数：1,581名
株式数：89,208単元

外国法人等：12.79%

株主数：155名
株式数：43,686単元

金融商品取引業者：0.88%

株主数：35名
株式数：3,017単元

個人その他：17.72%

株主数：12,033名
株式数：59,051単元

金融機関：42.41%

株主数：70名
株式数：144,827単元

- (注) 1. 単元未満株式は、176,556株です。
2. 自己株式276,702株は「個人その他」に2,767単元、単元未満株式に2株含まれております。
3. 「その他の法人」には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が14単元含まれております。

TOPICS

❖ 個人投資家の皆さまを対象に会社説明会を開催

創業60周年を迎え、地域の個人投資家の皆さまに当行の業績や営業施策等をより深くご理解いただければと、24年7月・8月、県内5会場(大宮・浦和・所沢・越谷・川口)にて、個人投資家の皆さまを対象とする会社説明会を開催し、5日間で約500名の方にご来場いただきました。



個人投資家の皆さまを対象に
会社説明会を開催

❖ ホームページを全面リニューアル

24年7月、ホームページを全面リニューアルしました。経営情報はじめ、商品・サービス、店舗のご案内等、さまざまな情報をより一層効率的に検索していただけるよう機能性を高めました。



トップページ画面

<http://www.musashinobank.co.jp>

武蔵野銀行の店舗配置図

各店舗の地図・
連絡先はこちら



バーコード読み取り対応の
携帯電話でご利用いただけます。
(一部ご利用いただけない機種も
ございますので、ご注意ください。)



中央地域

- 1 本店営業部
- 2 大宮支店
- 3 天沼支店
- 4 さいたま新都心出張所
- 5 宮原支店
- 6 宮原西口支店
- 7 大宮北支店
- 8 指扇支店
- 9 東大宮支店
- 10 七里支店
- 11 片柳支店
- 12 深作支店
- 13 浦和支店
- 14 県庁前支店
- 15 北浦和支店
- 16 南浦和支店
- 17 武蔵浦和支店

- 18 白銀支店
- 19 与野支店
- 20 北浦和西口支店
- 21 岩槻支店
- 22 川口支店
- 23 西川口支店
- 24 東川口支店
- 25 蕨支店
- 26 戸田支店
- 27 戸田西支店
- 28 鳩ヶ谷支店
- 29 上尾支店
- 30 西上尾支店
- 31 桶川支店
- 32 北本支店
- 33 鴻巣支店
- 34 伊奈支店
- 35 東浦和支店

西部地域

- 36 朝霞支店
- 37 新座支店
- 38 新座南支店
- 39 志木支店
- 40 みずほ台支店
- 41 ふじみ野支店
- 42 大井支店
- 43 川越支店
- 44 新河岸支店
- 45 霞ヶ関支店
- 46 川越南支店
- 47 鶴ヶ島支店
- 48 坂戸支店
- 49 東松山支店
- 50 高坂支店
- 51 小川支店
- 52 所沢支店

東部地域

- 53 新所沢支店
- 54 下山口支店
- 55 所沢駅前支店
- 56 東所沢支店
- 57 狭山支店
- 58 入曽支店
- 59 狭山西支店
- 60 入間支店
- 61 飯能支店
- 62 日高支店
- 63 和光支店

- 64 蓮田支店
- 65 新白岡支店
- 66 久喜支店
- 67 八潮支店
- 68 草加支店
- 69 松原支店
- 70 三郷支店
- 71 越谷支店
- 72 大袋支店
- 73 松伏支店
- 74 春日部支店
- 75 武里支店
- 76 藤ヶ丘支店
- 77 庄和支店
- 78 杉戸高野台支店
- 79 幸手支店
- 80 加須支店
- 81 羽生支店
- 82 行田支店

北部地域

- 83 熊谷支店
- 84 熊谷東支店

- 85 深谷支店
- 86 川本支店
- 87 本庄支店
- 88 本庄南支店
- 89 寄居支店

秩父地域

- 90 秩父支店
- 91 横瀬支店

東京

- 92 東京支店

茨城

- 93 五霞支店

法人オフィス

- 1 西東京オフィス

住宅ローンセンター

- 1 大宮住宅ローンセンター
- 2 大宮西口住宅ローンセンター
- 3 南浦和住宅ローンセンター
- 4 朝霞住宅ローンセンター
- 5 川越住宅ローンセンター
- 6 所沢住宅ローンセンター
- 7 南越谷住宅ローンセンター
- 8 久喜住宅ローンセンター
- 9 熊谷東住宅ローンセンター

新店舗

- 94 吉川支店
- (25年1月オープン予定)

(平成24年9月30日現在)



ホームページ <http://www.musashinobank.co.jp>
〒330-0854 さいたま市大宮区桜木町一丁目10番地8 TEL.048-641-6111(代)
発行/平成24年12月 編集/武蔵野銀行 総合企画部 広報・CSRグループ

